

社会科における令和5年度の授業改善推進プランの検証

① 社会的な事象に関する知識を確実に身に付ける。

【成果】東京都や各都道府県の場所、地域の特色などを確実に覚えられるように、確認テストを行ったり、授業の導入で復習をクイズなどにして繰り返し行ったりした結果、少しずつ知識が定着してきた。

【課題】重要語句や専門用語等を知り、理解することが充分ではない。

見学できない施設等について、問題点を身近に捉えることが難しかった。

学習する内容が多い時に、整理して考えることが難しく、理解や関心度にばらつきがあった。

② 地図やグラフ、表などの資料を活用する力を身に付ける。

【成果】社会科の授業において、多くの資料や写真、映像等に触れさせることで、必要な情報を探し出すことを意識させることができた。

【課題】資料を正確に読み取る力に課題がある。自分の考えを整理して、言葉に表すことも難しい。そのため、重要語句や専門用語の知識の確実な定着に結び付いていない。

③ 資料等から読み取ったことをもとに、考える力を高める。

【成果】資料から疑問や質問を考え、それに対して探究的な学習をする授業を大切にしていこうとすることで、受動的な学習姿勢ではなく、主体的に問題に対して取り組む意欲が高まった。

【課題】複数の資料を関係付けて読み取る力に課題がある。1つの資料から読み取れる視点でのみ考えてしまい、多面的に考えるために資料を活用し、考えを深めていくことが不十分であった。

社会科における改善策

①社会的な事象に関する知識を確実に身に付ける。

・重要語句や専門用語を確実に身に付けさせる。

・デジタル教科書や映像資料を活用し、身近でないことや実際に見学できない施設等についても学ぶ時間を設ける。

中学年	高学年
- 東京都や各都道府県の場所、地域の特色などを確実に覚えられるように、確認テストを行ったり、白地図の掲示をしたりして工夫する。 - 体験的な学習を多く取り入れるとともに、関連するTVのニュース番組や新聞などをその都度取り上げる。また、デジタル教科書や映像資料を活用することで、児童が主体的に知識を得ようと学習に取り組むことができるように指導する。 - 単元のまとめの学習を丁寧に行う。その際、学んだ語句を使い、ノートに文章や図、表を使ってまとめさせることで理解を深めさせる。	- 教室掲示を工夫することで、児童に重要語句やポイントなどに日頃から触れることができるようにしておく。 例：地理・・・日本や世界の地図等 歴史・・・年表、時代ごとのまとめ、人物等 公民・・・日本国憲法、三権分立図等 - 重要な語句や覚えるべき知識は、強調して板書したり、毎時間の授業の中で復習を行ったりするなど、定着を図ることができるようにする。 - 単元ごとに振り返りをする時間を設定し、まとめや学習感想を書く活動を通して、その単元で得た知識を身に付けることができるようにする。

②地図やグラフ、表などの資料を活用する力を身に付ける。

・資料を丁寧に正しく読み取る力を身に付けさせる。 ・資料から得た情報を活用する力を身に付けさせる。

中学年	高学年
- 表やグラフを読み取ることを授業の中で確実に指導し、実践的な活用力を身に付けさせる。 - 地名探しゲームや記号探しゲームなどを多く取り入れ、地図の読み取りに慣れさせ、資料の中から必要な情報を探し出す力を身に付けさせる。	- 提示する資料を精選して、資料を正確に読み取る力を身に付けさせる。 - 資料を読み取り、気付いたことや分かったことを書く学習習慣を作る。 - 資料から分かったことを活用して自分の考えをまとめたり、次の学習内容に生かしたりすることができるように指導する。

③複数の資料を横断的に読み取り、考える力を高める。

・ 複数の資料から物事を捉え、多面的に考える力を身に付けさせる。 ・ 分かったことや気付いたことから、自分の考えにつなげる力を身に付けさせる。	
中学年	高学年
・ 教科書や副教材、本や新聞などの複数の資料を横断的に見て、情報を集めていく。そこから分かったことや気付いたことをもとに、自分の考えをもつことができるようにする。	・ 教科書や副教材、本や新聞などの複数の資料を横断的に見て、情報を集めていく。また関連する情報や資料を ICT を活用し、自ら集めていく。そこから分かったことや気付いたことをもとに、自分の考えをもつことができるようにする。